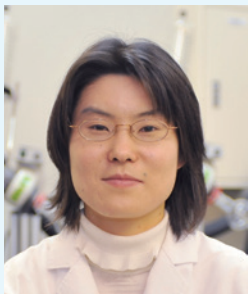


様々な末端構造をもつデンドリマーの 水和挙動と DDS 機能との相関



児島 千恵
大阪公立大学
准教授

樹状高分子であるデンドリマーは、内部空間や末端に薬物を担持できるため、ドラッグデリバリーシステム (DDS) への応用が期待されています。これまでに、DDS 材料としてポリエチレングリコール (PEG) や熱応答性部位で修飾したデンドリマーを作製し、その血中滞留性や細胞との相互作用の温度による制御について研究してきました。

細胞の約 70%は水ですので、DDS ナノキャリアと水との相互作用の理解は極めて重要です。本研究課題では、上記の様々な末端構造のデンドリマーナノ粒子の水和状態を調べ、ナノ粒子の DDS 機能との相関について明らかにします。

